



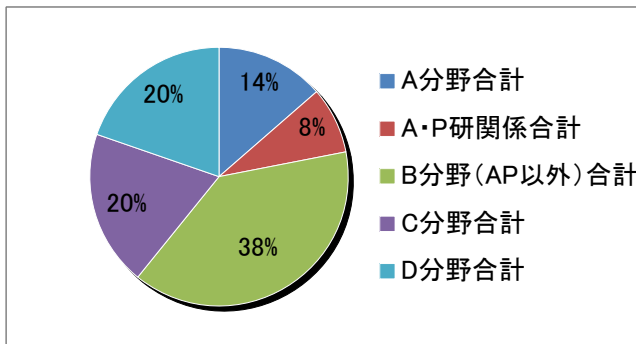
アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 22 / 2008 年 2 月

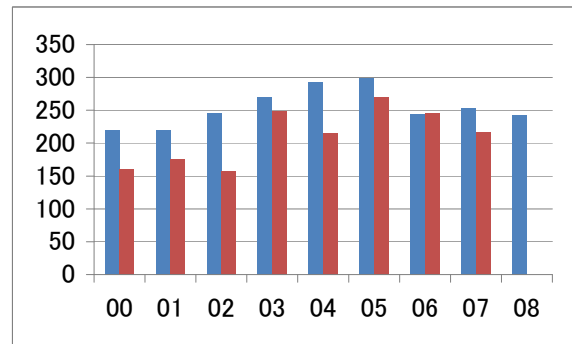
「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第 22 号をお届けします。
今回は、2008 年 3 月 18 日（火）～21 日（金）に北九州学術研究都市三大学（九州工業大学・北九州市立大学・早稲田大学）合同で開催予定の 2008 年電子情報通信学会総合大会についてお知らせいたします。

【1】2008 年電子情報通信学会総合大会

1 月 16 日（水）に機械振興会館において、2008 年電子情報通信学会総合大会プログラム編成委員会が開催され、総合大会のプログラムが確定しました。下のグラフは投稿ベースでのソサイエティ毎の発表割合と AP 研関連の大会発表件数の年次推移です。投稿総数は 2909 件、本大会に参加する 73 の研究専門委員会の中ではアンテナ・伝播研究会が最多で 241 件、以下、無線通信システム研究会 193 件、マイクロ波研究会 149 件です。



ソサイエティ毎の大会発表件数割合



AP 研関連の大会発表件数の年次推移

AP 研関連では、一般講演以外に下記の 2 つを企画しています。是非、ご参加ください。

(1) チュートリアル企画「アンテナ・伝搬における測定・評価技術」

No. 20 / 2007 年 12 月でもお知らせしましたが、黒川氏の講演が追加され、さらに充実しました。測定法、評価法というのはノウハウのようなところもあって、このような貴重な講演をまとめて聴講する機会はありません。時間もたっぷり取ってありますので、たくさん質問してください。陳先生（東北大）がオーガナイザーで、3 月 19 日（水）午後に開催の予定です。

<講演予定者（敬称略，講演順）>

- 杉浦 行（情報通信研究機構） “電磁波測定とアンテナ較正”
- 黒川 悟（産業技術総合研究所） “光技術と時間領域法によるアンテナ測定”
- 小川晃一（松下電器産業株式会社） “端末アンテナの測定・評価技術”
- 多賀登喜雄（関西学院大学） “陸上移動伝搬路内でのチャンネル測定と推定の実際”

(2) オーガナイズドセッション「アンテナ・伝搬融合技術（仮題）」

2006 年電子情報通信学会ソサイエティ大会（2006 年 9 月，金沢大）において、AP 研発足 40 周年記念事業の一環として、AP 研の歴代幹事による記念講演会を実施しました。覚えていらっしゃるでしょうか。講演者には、それぞれの思い入れのある自由なテーマで、講演時間を気にすることもなく、好き勝手にしゃべっていただきましたが、200 名を超える多くの方々に聴講していただき大盛況でした。今回の表記セッションは部外者から怪しまれないように適当な名前が付いていますが、

実態は、**記念講演会第2弾**の位置づけです。今回の講演者は、前回以降の幹事、幹事補佐、幹事／幹事補佐候補、AP 研専門委員等等、最前線でバリバリに活躍されている中堅研究者達13名（下記）の予定です。今後のAP 研を担っていく研究者達がどのような話をされるのか、私も楽しみにしています。本セッションは、**3月18日（火）午後**に開催の予定です。

<講演予定者（敬称略，講演順）>

前山（KDDI）、岩井（同志社大）、山本（北大）、榊原（名工大）、広川（東工大）、高橋（三菱電機）、山口（NTT ドコモ）、陳（東北大）、西森（NTT）、田邊（東芝）、藤元（福井大）、辻（NICT）、山田（新潟大）

【2】AP研副委員長の戯言

今月のお知らせは総合大会の話題だけでいっぱいになりました。総合大会といえば、今回もホテルを取るのが大変そうですね。予約はお早めに。

先月号で金沢の今年の雪が少ないという話を書きましたが、相変わらずですね。積もっても5cm程度ですぐに融けてしまいます。雪の降り積もる前に行われる雪吊りは金沢に冬の訪れを告げる風物詩となっており、兼六園で行われる雪吊りは、11月1日、園内の名木「唐崎松」から始められます。雪の兼六園（金沢）、月の後樂園（岡山）、花の偕楽園（水戸）と、いわゆる雪月花を対応させて日本三名園を選んだそうですが、雪の兼六園はいつになったら見られるのでしょうか。なお、兼六園の名称は宋代の詩人・李格非の『洛陽名園記』に由来し、「宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望の六つを兼ね備える名園」との意味で、13代藩主前田斉泰の時代（天保8年、1837年）に、当時の老中松平定信が命名したそう。園路を登りつめていく際の幽邃な雰囲気、高台にある霞ヶ池周辺の宏大さ、眼下の城下町の眺望を両立させています。現在でも、この眺望を邪魔するような中高層建築物の新築、改築等は景観条例で禁止されています。この条例は、金沢の個性ある都市景観を保存、育成または創造し、ゆとりとうるおいのある美しいまちを形づくって、後世の市民に引き継いで行くことを目的としており、兼六園眺望台や金沢城、ひがし茶屋街を含む金沢市内7箇所からの景観が保全眺望点として指定されています。観光都市金沢ならではのですね。

以上、写真も含めて石川県および金沢市のホームページからの受け売りでした。手抜きですかね。



霞ヶ池

（石川県金沢城・兼六園管理事務所 HP より）



唐崎松の雪吊り

（石川県観光推進総室 HP より）

注）画像データの著作権は石川県にあります。



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 牧野滋（金沢工業大学）

E-mail : ap_ac-chair@mail.ieice.org